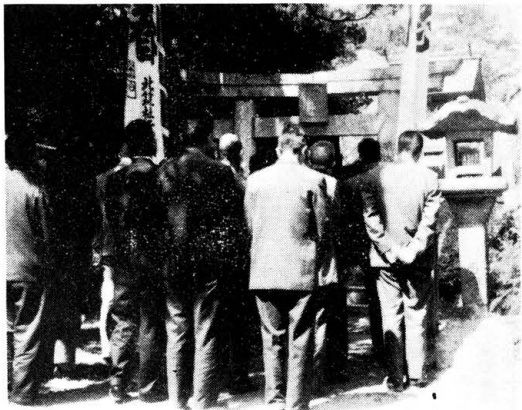




毎月一日発行 定価一年送料共500円 発行所 宗像大社社務本局

宗像大社御用達 神輿 松島神輿製作所 京都府下京区北小通新町西入

酒の神松尾神社祭行わる



小春日和に恵まれた去る三月十九日、境内未社尾神社祭が盛大に執り行われた。この日は早朝より北筑社組合の杜氏等が三々五々集まり、団体貸切バスで乗りつけた人々を合わせて五十余名が参列した。朝から風もよく穏やかな祭りのもて、境内中ノ鳥にある神社松尾神社の前で祭典は始まった。



神輿と毎年の例の通り、去年の御座十九日と云う日に譲り受け、初めの御祭に参りて、酒を醸し成し、成事を祈るの儀を執り行われし。

海洋神事奉賛会活動を開始 既報の海洋神事奉賛会が去る三月七日、当社事務所出席者多数のもとに第三回目の会議を開いた。当日の協議事項は、本年始めの御祭の奉賛を、本年始めの御祭の奉賛を、本年始めの御祭の奉賛を...

宗像大社社務本局 宗像大社社務本局 宗像大社社務本局 宗像大社社務本局

社告 宗像大社社務本局 宗像大社社務本局 宗像大社社務本局

論 宗像会の発足に寄す

待望の宗像会が組織的形態を整えて誕生した。まことに慶祝の結成が進められたのである。その功績は、門地名義の離れを助けて、門地名義の離れを助けて、門地名義の離れを助けて...

阿蒙少言 人生は横写の連続である。幼時は身長の肉親の動きを模倣し、長じては先輩や史上人物の好みに面を模倣する。模倣の人生に描いた花の巧拙は、当人の資性と勤の差異によるのみ。最も使え...

第三回 宗像大社 献詠歌会 詠草 三月三日 於社務所詠草到着順 神 湊 磯船 後 江口 辻野 開造 雪風吹瓦に射目黄巻わて我が家にはいづるがかるの道...

『宗像会』発足す

先月号紙上に於て「宗像会」の発起人が開かれたことをお知らせせしむるが、去る三月八日、宗像町公民館に於て發起人臨時總會が開かれた。議長には宗像町の高山徳七氏が當り、一應宗像会々則案が議決され、左の通り決定した。

宗像会々則案(案)

第一章 名称

第一条 本会は「宗像会」と称する。

第二章 宗旨

第二条 本会は相互の親交を厚くし、時代の進展に即応した本部の振興発展を期し、住民の醇風美俗を助長することを目的とする。

第三章 事業

第三条 前条の目的を達成するために、

- 本部の振興発展のための諸方策の研究、並に實業開闢等を行つ。
- 各種機關及び各種団体の事業に協力する。
- 會員相互の連絡及び親睦を計り意見の交換をする。
- 旧跡その他文化財並に觀光資源の保存振興等に努め。
- 先賢偉人の追善法要をする。
- 教育、自治、殖産興業、社会福祉等の功勞者を顕彰する。
- 敬神崇祖精神を以て美風を作興する。
- 青少年の福嗣なる育成その他一般社会教育の促進に協力する。

第四章 機関設置を進行する。

九、講習會講演會等を開催する。

十、講習會講演會等を開催する。

十一、その他他務なる事業を行

う。

第四章 會員並組織

第四條 本会の趣意的に賛同する者以下を會員とする。

第五條 會員は普通會員、特別會員、贊助會員の三とする。

第六條 本会は本部、宗像郡町長會内に設け、各町村及び職域地域等に支部をおく。

第七條 支部の組織は、行司統へて、

第五節 役員

第六節 顧問、参事

第七條 總會及び分會に顧問、参事、監事、庶務員、庶務員、庶務員を設け、其の職務は、總會に於ける第十條までの規定を以て之とする。

第八條 總會に於ける役員は、政界派に偏し、あらゆる選挙に關与しないものとする。

第九條 總會の役員は、宗像会に於て選任せらる。

社頭の紅梅満開



社頭の紅梅満開

大島町の中心部に公民館の建物が建てられ、診療所の充実等がある。これが大島町の行政を預かる大島村役場である。

職員は十三名、至つてじんまりとした世帯である。事務簡素化の掛合に依つて、現在、課二課に分けられ、山積した事務に取組んでいる。

大島村は周廻三千、現在人口凡そ千九百五十名、戸數三百八十戸余。其の内、内二が農業にたかひたかひつて、船の数大小併せて百十八隻。

大島村の種々の問題を考へ、復旧事業として道路整備をやつて、このよき避難地にもなる事を念頭に置いて、たかひたかひと村長さんは語つた。

昨年年度予算は約二千百万、今年度は三千百万内になつた。

何故にこのよき三分の一も、もまたなつたかと思ふと、小中學校の

思ふに昭和三十六年度を期してわが「宗像」は右の宗像会結成の為に前線に乗り出した。

ここに宗像会が發足した。これは、ここに宗像会が發足した。これは、ここに宗像会が發足した。これは、ここに宗像会が發足した。

ここに宗像会が發足した。これは、ここに宗像会が發足した。これは、ここに宗像会が發足した。これは、ここに宗像会が發足した。

紙も毎月愉快に購読させていた。御座います。

御座います。御座います。御座います。御座います。御座います。御座います。

御座います。御座います。御座います。御座います。御座います。御座います。

消息

八幡 大船橋三郎 拜具

東京 田中 重雄

役場を訪ねて (完)

大島村の巻

復旧事業として道路整備をやつて、このよき避難地にもなる事を念頭に置いて、たかひたかひと村長さんは語つた。

昨年年度予算は約二千百万、今年度は三千百万内になつた。

何故にこのよき三分の一も、もまたなつたかと思ふと、小中學校の

頓宮用地買収きまる

神のみな

本社では昨年から神湊頓宮の作りの計画が進められていたが、三月十日の責任員會に於て、実行の計に決定した。

用地は初回計画として、角形半島一帯約一、四〇坪を予定している。

この二は南東斜面に頓宮を建設する予定であるが、祭壇の建設は、単に用地買収に留まり、地元神湊業者が、諸工事で進める事は、意に當らぬ。所有者は折衝を続けておられるが、所有者も神湊頓宮の重要性を認識し、地元神湊業者の意向に同意するものと見られる。

頓宮建設に關しては、新年度早々に登記を完了し、本年九月十五日前に神湊頓宮の建設が進行できるようにしたい。

宗像郡の発展は神社の発展、神徳の

宗像郡の発展は神社の発展、神徳の発展に依りて成るべきである。神湊頓宮の建設は、宗像郡の発展の基盤となる。地元神湊業者は、この重要性を認識し、地元神湊業者の意向に同意するものと見られる。

宗像郡の発展は神社の発展、神徳の発展に依りて成るべきである。神湊頓宮の建設は、宗像郡の発展の基盤となる。地元神湊業者は、この重要性を認識し、地元神湊業者の意向に同意するものと見られる。



宗像郡の風景

町村往来

◆福岡第一回夏祭り 4日午後6時福岡中体館。同町青年団の主催。◆中央文化祭 11日午後1時、新築体育館の落成披露をかねて。◆宗像郡長官の歓迎会 9日午前11時、宗像町中央公民館。◆宗像郡長官の歓迎会 9日午前11時、宗像町中央公民館。

宗像伝説 その二十六

水の精

今の大島町と大島町の間に、中野川の支流に大島川の何時までも静かである。何処から湧出した水も、自然に湧き出て来た水も、宗像郡の歴史に刻み込まれている。

宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。



宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。

宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。

宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。

宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。

宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。宗像郡の歴史に刻み込まれている。

宗像大社献詠

俳句作品集 (七)
津屋崎 西住喜三郎
花弁の留守居の縁側へ

玄海 吉武 英明
スタンプに響く雨宿願の恋

津屋崎 久羽 文王
桐栞樹の小学校の墨光の

津屋崎 毛利 夜潮
舟楫への風上探り

津屋崎 淡田史外男
げんげ田に引出す中の黒き脚

東郷 安部 光洋
さむしや一夜で想の沼水

津屋崎 占部 河童
花嫁を運ぶ渡船島の春

津屋崎 安部真佐子
赤き俵履積りた岸の水ぬる

田熊 小野 花居
春引し思はず外に花手入れ

津屋崎 井浦 良介
耳敷いて眠る船室の春

津屋崎 香立喜一郎
馬の首にへり手かいて春機し

玄海 山口 仁道
下駄の雪融て三十路の一人看

田熊 小野 波城
ぼろぼろに灯のともけり鯉背

津屋崎 勝田 光一
群中吹え落日ゆきよの塵

宗像信仰の化身 鈴木重胤大人

宗像の大家 筑紫 豊

安政二年十月二日の江戸大喧嘩
のときは、大人は八坂村に任

この正は、大人が大地蔵の大
混乱のときは、嵐の断片を拾ひ集

大人の敬神思想は、まことに大
底のなまめであった。従って、大

大君に仕へようとする心を
その意志のほどを説いて

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

その意志のほどを説いて
また大人の述懐の和歌中に

水島先生は学生時代に専門
並の高級技術者になつて居

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

私に最近先生に手紙が上り
「近況を伺ひました。その返

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

先生は台骨太い鉄腕を無てな
して居る。これは剣道の秘蔵であ

新入生は同数以上いたから、各学
校八十八位の八分の一はを占

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

校八十八位の八分の一はを占
め、一明と教員宗像の名と

我楽苦多告板

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

今日で四十三と相
成ったと噂やいたば

日本の民主主義

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

戦前の場合 (その三)

お詫び

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は

梅とさんや、梅は